



Scopusユーザーのケーススタディ（1）

～ Scopusで変わったスタンブルック教授のワークフロー ～

ワークフローを簡略化

ピーター・スタンブルック教授（Professor Peter Stambrook）は、シンシナティ大学医療センターの細胞生物学、神経生物学、解剖学科の主任教授です。学科主任としての職務に加えて、教授は自身の専門分野である細胞突然変異に関する研究に活発に従事しており、*Mutation Research* 誌の編集者でもあります。また、環境がDNAや細胞を損傷するメカニズムや、その修復方法を研究する専門科学機関である環境変異原学会（Environmental Mutagen Society（EMS））の会長も務めています。

教育者、研究者、編集者、運営管理者を兼務していることから、スタンブルック教授の毎日は常に時間に追われています。関連する研究や発見から、補助金の交付申請、昇進や長期在職権の候補者の評価、ジャーナルの査読者探しまで、多種多彩な役割を巧みに演じ分ける必要に迫られています。

また、彼のワークフローの中の日常的な仕事の多くが数時間から数日を要するため、論文を書いたり、実験を行ったりといった他の重要な作業までなかなか手が回りません。こうした事実が、状況を一層困難なものにしています。

さらに、多くの科学者、ジャーナルの編集者、教育者と同様に、スタンブルック教授も科学界で常に共同研究者を探しています。しかし、こうした仲間を見つけるのに便利なツールがなければ、既存の知り合いのネットワークに頼らざるを得ません。

2004年11月、スタンブルック教授は、科学、技術、医学、社会科学分野の研究論文の新しい書誌・引用情報データベースであるScopusを試用・評価する機会がありました。Scopusは、この種のデータベースとしては最大かつ最も包括的なシステムで、しかも高速で使いやすいといわれています。

同システムを使い始めてまもなく、スタンブルック教授は、*Mutation Research*の論文を査読してくれる研究者仲間を探す、といった単純ながら時間のかかる仕事をScopusで難なく行えることに気がきました。そこで、教授は様々な仕事に伴う各種プロジェクトにScopusを活用しました。その結果、これまで多大な時間を奪われてきた業務の簡略・迅速化に成功しました。

「求めている情報の多くがScopusで素早く見つかります。おかげで、文献探しに費やす時間が短縮され、自分自身の調査研究に専念することができます。Scopusは研究者や編集者、運営管理者としての日常業務を簡略化してくれました」とスタンブルック教授は話しています。

研究者仲間との共同作業

*Mutation Research*は、突然変異、染色体切断、遺伝的不安定性、細胞周期その他の関連テーマを扱う国際的な学術誌です。同誌の編集者であるスタンブルック教授には、研究者グループに論文を正しく査読してもらう責任があります。スタンブルック教授は突然変異の分野では権威ですが、同誌は教授の直接の専門領域外の論文を掲載することもあるため、査読や審査に協力してくれる研究者仲間を探すことは重要な課題です。



SCOPUS

たとえば、スタンブルック教授は最近、遺伝子組換えをした魚の突然変異に関する論文を評価してくれる査読者を探す必要に迫られました。Scopusを使うことによって、教授はものの数分で候補者数名を選出することができました。教授はそれらの研究者と連絡をとり、投稿論文を査読してもらうことができました。

「専門外の論文の審査については、これまで知人のつてを頼ったり、膨大な時間をかけて調査したりして適材の発掘に努めてきました。しかし、ジャーナル査読は限られた査読者のみで行われるべきではないので前者は好ましくなく、また後者は時間的に大きな負担となっていました」とスタンブルック教授は説明します。

「Scopusは査読を引き受けてくれる研究者のリストを飛躍的に拡大してくれました。比較的短時間で専門外の分野をざっと概観して把握することができますし、引用に関する情報は個々の研究者の長所や実力を測るのに役立ちます。これによって、校閲を依頼すべき最良の候補者の判定が容易になります」

補助金の交付申請や専門領域の枠を超えた研究を簡略化

数ヶ月前、スタンブルック教授は「ヒ素が胚幹細胞に及ぼす影響」の研究資金を捻出すべく、補助金の交付申請に取り掛かりました。教授は自らの専門知識を駆使して提案書の草案を書き上げましたが、ヒ素に関する最新の研究データを素早く把握する必要がありました。そこで教授はScopusを使い、ものの数分で必要なデータの大半を見つけることができました。もしScopusがなければ、この作業には何時間もかかったでしょう。

スタンブルック教授は次のように話しています。「Scopusのおかげで、専門領域外の情報を素早く見つけることができます。補助金の交付申請にはしばしば専門外の知識が求められますが、Scopusはそうした作業の簡略化や迅速化に役立っています」

スタンブルック教授は運営管理者や研究者としての責任も担っていますが、Scopusはこうした業務でも強い味方になることが証明されています。教授は最近、腫瘍増殖の研究を取り扱ったことがあるが生物医学の分野には登録されていないシンシナティ周辺の研究者をScopusで検索しました。教授はすぐに、腫瘍増殖速度の数理的モデル化を実施しているシンシナティ大学数学部の同僚が発表した論文を発見しました。

「アルツハイマー病を研究している地元の研究者を検索していて、通りの向かい側に住む大学の同僚が興味深い研究を行っていることが判明したこともあります」

運営管理者の強い味方

運営管理者でもあるスタンブルック教授は、大学教授や研究者を部下として指導し、評価しなくてはなりません。Scopusは、そうした同僚たちの最新の研究成果を知るためのツールとして、教授にとって欠かせない存在になりました。

「Scopusは引用に関するデータを詳しく掘り下げているので、特定の研究者の論文が、誰によって、どれぐらいの頻度で、どんなところに引用されているかが分かります。これは同僚と協力し、あるいは指導していく上で大変貴重なツールです」